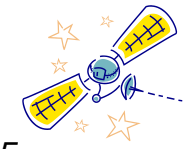
成瀬が丘 防災つうしん



No.5
平成２８年５月１５日
成瀬が丘自治会自主防災部

●熊本地震

平成 28 年 4 月 14 日に発生した一連の直下型地震によって、死者・行方不明合わせて 50 名という多くの人が犠牲になりました。新聞報道によると、犠牲になった 50 人の死亡時の状況を調べたところ 7 割超の 37 人が家屋の倒壊で亡くなっていたそうです。その 37 人中少なくとも 20 人がいた家屋は、耐震基準が厳しくなる 1981 年 6 月以前に建てられたことがわかったそうです。現地で倒壊家屋や地盤の調査をした古賀一八・福岡大教授によると、調べた範囲では倒壊家屋のほとんどが 1981 年以前の建物だった。81 年以降の建物で倒れたのは数軒で、より基準が厳しくなった 2000 年以降の建物では建材が折れる損壊が 1 軒で確認されただけで、いずれも死者はいなかったそうです。

一方、日本建築学会九州支部の調査では、熊本県益城町で 2000 年以降に建てられたと見られる木造家屋の全壊が 51 棟あることがわかったそうです。益城町では 14 日夜に震度 7 を観測後、少なくとも震度 6 弱を 1 回経て 16 日未明に震度 7 を観測している。元日本建築学会長の和田章・東京工業大名誉教授は「現行の建築基準法の耐震基準では、震度 6 強や 7 の地震が 1 回来ることしか想定していない。今の基準は最低基準であることを充分認識すべきだ。」と話しています。

●我々はどう備えたらいいのか？

大きな地震災害があった熊本地方では、大きな直下型地震の起きる確率は 30 年以内に 2～3%と言われていました。一方、我々が住む首都圏では 30 年以内に 70%の確率で発生すると言われています。

震度 6～7 の地震が発生したら我々はどうするでしょうか。
発生直後まずは自分と我が子の命を守ろうとするでしょう。地震直後に家が倒壊しなければ地震直後に命を奪われることはないでしょう。その為には地震への事前の備えが大事になります。

備えとは、耐震診断（市で無料）　耐震補強　家具固定　念の為の２階の寝室　屋内避難通路の確保　等々…。特に 1981 年以前に建てられた住宅にお住いの方は、出来る範囲で事前の備えをよろしくお願いします。

今回の地震では火災の大きな被害はなかったと言われています。これは地震の発生時間や住宅の戸数・密度によるものと思われます。もし、成瀬が丘に震度 6～7 の地震が起きても熊本のように火災の発生を最小にしたい。その為には地震（火災）への事前の備え（心構え）が大事になります。

地震発生時、消火のチャンスは３度あると言われています。①揺れを感じた時
②大揺れが治まった時　③出火の直後　３つのタイミングで自宅の消化を確認したら、向こう三軒両隣へ声を掛けて消火を確認しましょう。

大災害の時ほど近所（自治会の班）の助け合いが必要です（近助の力）。その為には自治会の行事には積極的に参加し顔見知りを増やしましょう。班会があったら参加して近所の力になりましょう。災害の時、救助される側より、救助する側になりましょう。

以上